

地質情報の整備状況(平成26年度、平成27年度見込み)及び平成28年度の整備方針(案)

| 項目 | 整備計画 | | | 実績 | 備考 |
|-------|--|---|--|--|----|
| | ～平成26年度 | ～平成29年度 | ～平成32年度 | | |
| 重点化項目 | <p>ボーリングデータの一元化</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県北部をモデル地域とし「ボーリングデータの一元化」の取組を開始 千葉県北部の自治体に散在するボーリングデータを収集 千葉県北部で基準ボーリング調査を実施し、既存ボーリングデータの地層の対比の基準となるデータを整備 | <ul style="list-style-type: none"> 千葉県北部をモデル地域とした「ボーリングデータの一元化」を、引き続き実施 自治体がデータを管理し、それらをポータルサイトで一元的に閲覧できる分散統合管理方式での整備を実施 自治体データベースに格納できないデータについては、産総研データベースに格納できるような体制を用意 容易にデータ入力できるインターフェースの構築・提供 基準ボーリング調査によって得られた基準データを用いて地層の対比・再区分を行い、地下地質構造の解釈を付与したデータを整備 一般ユーザーには、地質地盤図としてわかりやすく提供する一方、プロユーザーには、2次利用しやすい標準的なファイル形式(XMLなど)で提供 | <ul style="list-style-type: none"> モデル地域での事例やノウハウ等をまとめ、「ボーリングデータの一元化」の他地域展開に資するガイドラインを作成 | <p>【平成26年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県から既存ボーリングデータの提供を受け、データを標準形式への変換は計画通り進捗した(約3万本の変換を実施)。標準形式への変換が完了したデータを利用して、千葉県と共同で解析を開始 千葉県北部で基準ボーリング調査を追加で7地点実施(全20地点予定、平成26年度までに14件予定)し、データを整備 上記の追加データを用い一部地域で3次元モデリングを高精度化した 自治体等の担当者がボーリングデータを管理するためのツール「ボーリングデータ管理システム」を試作 | |
| | | <p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ボーリングデータ一元化による都市平野域における精密な地質図の整備に向けて、今後2年間(平成29年度まで)で、千葉県の協力を得て同県北部を対象としたモデル事業を継続して実施 千葉県北部での基準ボーリングの追加、追加データ(基準ボーリング及び既存ボーリングデータ)を用いた3次元モデルの高精度化、3次元モデル閲覧システムの構築を行う | <p>【平成27年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県北部で基準ボーリング調査を追加で実施し、データを整備予定 追加データを使って3次元地質モデリングを高精度化予定 先行して2次元地質図と基準ボーリングデータを公開予定 ボーリングデータの一元化による地質情報整備に向けた枠組みや利活用のあり方について、海外動向・制度の把握、データ活用による具体的なメリットの整理等を行う予定 | | |

| | | | | |
|---------------------|--------|---|--|---|
| 国土の基礎情報としての基盤的な地質情報 | 地質図幅 | <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1地質図幅は、プレートテクトニクス導入以前の旧来の地質解釈に基づく地質図から改訂 ・5万分の1地質図幅は、人口が密集する関東～東海地域と地方中核都市、及日本列島の地質標準が確立できる地域を優先して整備 ・次世代シームレス地質図の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・5万分の1地質図幅は、重点化した地域を中心に40区画を整備 ・最新の地質情報に基づく20万分の1地質図幅の改訂 ・最新の地質情報に基づくシームレス地質図の改訂 | <p>【平成26年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1地質図幅2区画を出版(横須賀、大分。(注:全124区画は整備済)) ・5万分の1地質図幅5区画(第2期整備計画の40区画中、計21区画整備)を出版(北川、南部、鴻巣、冠山、川俣) ・次世代20万分の1日本シームレス地質図の凡例に基づき、東北及び北海道地域の編纂を終了し、日本全国の凡例当てはめ作業が終了 |
| | | <p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未整備区画の解消をめざし引き続き取り組む ・20万分の1の地質図幅の改訂、5万分の1の地質図幅の整備を、重点化した地域を中心に継続して行う ・最新の地質情報に基づくシームレス地質図の改訂を行う。次世代シームレス地質図の公開を目指す | <p>【平成27年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1地質図幅1区画を改訂予定 ・5万分の1地質図幅2区画を出版予定 ・編纂済み次世代シームレス地質図は公開へ向け、全国124区画間境界の最終調整を行う予定 | |
| 海洋地質情報 | 海洋地質情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1海洋地質図は、日本列島主要4島周辺海域の全49区画の完成に向けた整備 ・海洋地質図のデジタル化の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・南西諸島周辺海域の海洋地質図の整備促進と、全区画における海洋地質調査の完了 ・区画ごとに異なる地層区分を統一的な基準で対比を行い、海洋地質図のシームレス化への取組 | <p>【平成26年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1海洋地質図は、2枚を出版。主要4島周辺海域の全49区画中48区画を整備 ・出版済み海洋地質図のデジタル化を推進 |
| | | <p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南西諸島周辺海域の調査計画を継続して行い、海洋地質図の整備を推進 | <p>【平成27年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南西諸島周辺海域の海洋地質図1枚出版 <p>【平成27年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南西諸島周辺海域の海洋地質調査を実施予定 ・20万分の1海洋地質図の主要4島周辺海域の全49区画の整備完了予定 ・南西諸島周辺海域の海洋地質図の整備の促進 | |

| | | | | | |
|----------------|--|---|--|---|--|
| <p>沿岸域地質情報</p> | <p>・「福岡沿岸域」、「石狩低地沿岸域」の整備完了、及び「駿河湾沿岸域」の整備を促進 ・沿岸域の調査手法の確立と、災害リスク評価に資する地質地盤図の整備 ・沿岸域地質情報の標準化とデジタル化</p> | <p>・「相模湾～房総沿岸域」の整備を促進 ・沿岸域の調査手法の確立と、災害リスク評価に資する地質地盤図の整備 ・沿岸域地質情報の標準化とデジタル化</p> <p>【平成28年度】 ・「相模湾～房総沿岸域」の海陸シームレス地質情報集・作成のための調査を実施</p> | <p>・関東、東海地域や瀬戸内などの中核都市沿岸域について整備</p> | <p>【平成26年度実績】 ・「石狩低地帯南部沿岸域」の海陸シームレス地質情報集を出版(DVD) ・「駿河湾沿岸域」の海陸シームレス地質情報をとりまとめた ・沿岸域地質情報の標準化とデジタル化を実施</p> <p>【平成27年度実績(年度末見込み)】 ・「駿河湾沿岸域」の海陸シームレス地質情報集を出版(DVD)予定 ・沿岸域地質情報の標準化とデジタル化を公開予定 ・沿岸域の調査手法の確立と、災害リスク評価に資する地質地盤図の整備へ向けた調査研究を実施</p> | |
| <p>火山情報</p> | <p>・3火山(諏訪之瀬島、桜島、九重山)の火山地質図を整備 ・ボーリングやトレンチ調査による詳細な噴火活動履歴解析と、噴出物に対する物質科学的研究の推進</p> | <p>・国の政策と整合する5火山について火山地質図を整備 ・ボーリングやトレンチ調査による詳細な噴火活動履歴解析及び噴出物の物質科学的研究の推進</p> <p>【平成28年度】 ・常時観測対象の活火山の噴火活動履歴調査を継続して行い、噴火中の火山で噴出物の物質科学的研究を推進</p> | <p>・噴火シナリオ等の成果を反映させた活火山データベースの充実 ・火山地質図は、防災上重要な7火山を整備</p> | <p>【平成26年度実績】 ・蔵王火山地質図を出版 ・九重火山地質図を出版 ・富士火山の地質図原稿を作成 ・西之島噴火(平成25～)、口永良部島(平成26～)噴火、御嶽山(平成26年)及び阿蘇山噴火(平成26～)を含めた火山噴出物の物質科学的研究を推進</p> <p>【平成27年度実績】 ・平成27年口永良部島噴火、平成27年箱根噴火の火山噴出物の物質科学的研究を推進</p> <p>【平成27年度実績(年度末見込み)】 ・富士火山の地質図を出版予定 ・平成26年御嶽山噴火を含めた火山噴出物の物質科学的研究を推進予定</p> | |
| <p>活断層情報</p> | <p>・首都圏をはじめとする社会的重要な地域を中心に、陸域及び沿岸域の活断層の活動履歴情報の整備</p> | <p>・活動性評価の高度化のために、活断層の地下深部形状、地盤の変形予測手法や断層挙動の解明に資する地質情報の整備</p> <p>【平成28年度】 ・活断層の活動性評価を継続して実施</p> | <p>・活断層データベースに、3次元地下構造モデルを組み合わせた総合的なデータベースを構築</p> | <p>【平成26年度実績】 ・陸域5断層帯、海域2断層帯の調査および活動性評価を実施 ・活断層データベースに新規データ(20文献程度)を追加</p> <p>【平成27年度実績】 ・活断層データベースの活動セグメントパラメータ評価の見直しを実施し、28セグメントの追加と37セグメントの形状変更を実施 ・活断層データベースの調査地点データを約980件追加</p> <p>【平成27年度実績(年度末見込み)】 ・陸域5断層帯、海域2断層帯の調査および活動性評価を実施予定 ・活断層データベースに新規データ(10文献程度)を追加予定</p> | |

| | | | | | |
|----------------|---|--|--|--|--|
| <p>津波情報</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・Google Earthなどを利用した過去の津波痕跡の位置や、柱状図などの根拠データの可視化 ・仙台平野の津波浸水履歴図の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・房総半島・下北半島、東海・東南海・南海地震エリア等を重点対象として、歴史記録や津波堆積物等に基づいた過去の津波情報の整備 ・精度の高い津波シミュレーションを実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・活断層データベースに、津波浸水履歴情報を組み合わせた総合的なデータベースを構築 | <p>【平成26年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波堆積物データベースをweb公開。マップ上で津波堆積物の掘削調査地点の情報が閲覧できるようにした。 ・津波堆積物データベースに宮城県仙台平野の詳細情報として、各調査地点における柱状図とその解説文や津波シミュレーションによる過去の津波の推定浸水域についてまとめ、公開した。 ・宮城県石巻平野および福島県北部太平洋岸の津波堆積物データを取りまとめ、web公開に向けた準備を実施 | |
| | | <p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波堆積物データベースに、静岡県沿岸の一部の津波堆積物データを追加 ・高知県沿岸の一部の津波堆積物データの整理と公開準備を行う | | <p>【平成27年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森県小田野沢、宮城県石巻平野および福島県北部太平洋岸の津波堆積物データをwebで公開 <p>【平成27年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CD-ROMで公表済みの北海道東部の津波浸水履歴図等の津波堆積物データについて整理し、webで公開予定 ・静岡県沿岸の津波堆積物データの整理と公開準備 | |
| <p>地下水環境情報</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・熊本平野の水文環境図を整備・出版 ・大阪平野、静岡平野の調査・解析を開始し、水文環境図の整備に着手 ・水文環境図作成指針の作成及びその平易化を行うなど、地方大学等との連携促進の仕組みの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・大阪平野、石狩平野、京都盆地の水文環境図を整備 ・水文環境図作成指針の作成及びその平易化を行うなど、地方大学等との連携促進の仕組みの構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・広島平野、新潟平野、静岡平野、筑紫平野(改定)、関東平野(改定)を加えた9地域の水文環境図を整備 ・水文環境図や日本水理地質図のデジタル化と、他の地質図類と統合できるようなデータベース構築を加速 ・水文環境図に、工業用水データベースや帯水層・地下水データベース等の情報を反映 | <p>【平成26年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「石狩平野」(札幌市を中心とした地域)を出版 ・「大阪平野」、「静岡平野(富士山地域)」に加えて、「京都盆地」の調査や地下水流動解析を開始 ・和歌山大学・大阪市立大学等との共同研究による地方版の水文環境図(上記大阪平野を含む)の作成を開始 | |
| | | <p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪平野」の編集と出版を実施 | | <p>【平成27年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡平野(富士山地域)を出版予定 ・大阪市立大学や和歌山大学との共同研究による調査を継続 ・京都盆地の調査を継続 ・地方版作成マニュアル作成に着手予定 | |

| | | | | | |
|--------|--|--|--|---|--|
| 鉱物資源情報 | 米国地質調査所との連携を強化し、今後の鉱物資源の供給源確保を図る上で重要とされる南アフリカやモンゴル等の未開発地域での資源調査を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・米国地質調査所、JOGMEC等の関係機関と連携しながら、世界各地のレアアースの資源量のより正確な把握に資する地質情報の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに蓄積したアジアの鉱物資源データと500万分の1アジア地質図を整理・統合し、アジアをほぼ網羅した“アジア鉱物資源図”の作成 ・鉱物資源情報を鉱床タイプ、品位、年代、鉱物等で検索・抽出できるようなデータベースを構築 | 【平成26年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・「500万分の1 アジア鉱物資源図」を出版、及びオンライン版鉱物資源図の編集 ・米国地質調査所との共同研究によりアジアのレアアース資源情報を収集し、共著で世界のレアアース資源情報のレポートを編集 ・ミャンマーについて、同国の鉱山省地質調査鉱物探鉱局と連携しレアアース情報を収集 | |
| | | 【平成28年度】 <ul style="list-style-type: none"> ・アジア鉱物資源データベース編集と、オンライン版アジア鉱物資源図の整備を継続実施 | | 【平成27年度実績(年度末見込み)】 <ul style="list-style-type: none"> ・アジア鉱物資源データベースのデータ更新 ・南アレアース鉱床について開発可能性に関する調査を開始 ・オンライン版アジア鉱物資源図の個票データの整備予定 ・ミャンマーについて、現地機関と協力してレアアース情報の収集を継続 | |
| 地熱資源情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・公的機関によって実施されてきた地熱資源開発調査のデータを、関係機関(JOGMEC等)と連携しながら、収集・整理・デジタル化し、データベース化に着手 | <ul style="list-style-type: none"> ・地熱資源開発調査データのデータベース化を継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・温泉発電や、EGS等の地熱利用の高度化技術に対応した資源評価・開発のために、更なる調査データを蓄積 ・理解・利用しやすい形式でWeb公開するとともに、他の関連するデータベースと連携・統合できるようなデータベースを構築 | 【平成26年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・地熱ポテンシャルマップについて地下温度構造や貯留層構造の推定法の見直しを実施 | |
| | | 【平成28年度】 <ul style="list-style-type: none"> ・地熱ポテンシャルマップ改訂版を出版 | | 【平成27年度実績(年度末見込み)】 <ul style="list-style-type: none"> ・地熱ポテンシャルマップ改訂版公開のための準備作業を実施(他機関との調整等)予定 ・「地熱資源研究・評価への電子地球科学情報利用の事例集」の公表予定 | |

※平成27年度実績は、平成27年8月末現在までのもの。